

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551) 6215~9
ロシア東欧経済研究所 [購読料・送料共前納 1ヶ月-1,500円 1ヶ年-18,000円]

平成8年1月25日

No. 1012

ロシア銀行協会幹部に聞く

はじめに

最近、ロシアの新聞を読んでいると、銀行に関係した重要記事がひとつも載っていない日は、まずない。それほどまでに、ロシアの銀行は急激に力をつけ、経済の浮沈をも左右しうる存在に成長した。

それに比例するように、商業銀行が組織する業界団体「ロシア銀行協会」のことも、非常に頻繁に話題に上るようになってきている。おそらく、現在銀行協会はロシアの経済団体のなかで最も有力なもののひとつであり、政府の政策に対しても、かなりの影響力をもっているとみられる。

このほど、モスクワにあるロシア銀行協会の事務局を訪問し、Yu. チュラコフ常任理事 (Yury CHURAKOV) に話を聞くことができたので、本号ではその会見内容をお伝えする。巻末の資料は、協会から入手した英文の活動紹介である。

Q. まず、ロシア銀行協会が設立された経緯について教えてください。

A. ご存じのとおり、ペレストロイカ以前のソ連には国営の銀行しかなく、 Gosbank (ソ連国立銀行) といくつかの専門別銀行が機能していました。ゴルバチョフ改革のもとで協同組合運動が盛んになるなか、新たな商業銀行の設立が相次ぐようになります。そのなかには、協同組合方式のものや、工業企業が設立したものがありました。そうしたなか、商業銀行65行が集まってロシア銀行協会の第1回総会が1991年3月に開かれ、当会は発足しました